

# 生きづらさを抱える子どもたち

～子どもたちのリアル 彼らのリカバリーを支える取り組みを考える～

・オープニング 12:30～12:35

講演

- ・「自分を傷つけずにはいられない子どもたち」松本俊彦さん（医師）12:35～13:15
- ・「回復と学業の両立：北米シアトル・ソーバーハイスクール視察報告」鈴木葉菜さん（筑波大学大学院生）13:15～13:55
- ・「少年院で見える少年たちの現実」荒川久美子さん（+宮下さん）（加古川学園福祉専門官）14:05～14:45
- ・「保健室から見えるこども達の今」庄司るみ子さん（尼崎市内公立中学校の養護教諭）14:45～15:25
- ・「体験談」依頼中 15:35～15:55
- ・トークセッション 松本俊彦さん、鈴木葉菜さん、荒川久美子さん、庄司るみ子さん 16:05～16:55
- ・クロージング 16:55～17:00

日時 2025年3月16日（日）12:30～17:00（開場・受付開始12:00～）  
会場 大阪府立労働センター 南館5階南ホール（大阪市中央区北浜東3-14）

- 司会 籠本孝雄さん（前大阪府こころの健康総合センター 所長）
- コーディネーター 渡邊洋次郎（リカバリハウスいちご）

現代の若者たちに起こる市販薬のオーバードーズや自傷行為、少年院に入っている少年たちの中にも事情や背景は異なれど、アルコール依存の問題が表面化しつつある。中学生たちがリストカット、エナジードリンク過剰摂取、市販薬オーバードーズ、スマホ、SNSへ依存する自分たちを知っている。北米シアトルでもアディクションの問題と向き合いながら生きる高校生たちがいる。私たちに何ができるか、彼らのリカバリーを支えるにはどうすればいいのか、みんなで考えましょう

松本俊彦

国立研究開発法人 国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 薬物依存研究部 部長 同センター 病院 薬物依存症センター センター長 1993年佐賀医科大学卒業。横浜市立大学医学部附属病院にて初期臨床研修終了後、国立横浜病院精神科、神奈川県立精神医療センター、横浜市立大学医学部附属病院精神科、国立精神・神経センター精神保健研究所司法精神医学研究部室長、同 自殺予防総合対策センター 副センターなどを経て、2015年より現職。2017年より国立精神・神経医療研究センター病院薬物依存症センター センター長を兼務。日本社会精神医学会理事、日本アルコール・アディクション医学会理事。主著に、「自分を傷つけずにはいられない」（講談社、2015）、「薬物依存症」（筑摩書房、2018）、「誰がために医師はある—クスリとヒトの現代論（みすず書房、2021：第70回日本エッセイスト・クラブ賞）、「世界一やさしい依存症入門」（河出書房新社、2021）などがある。



鈴木葉菜

筑波大学 人間総合科学学術院 障害科学学位プログラム 博士前期課程2年  
社会福祉士 2023年筑波大学人間学群障害科学類卒業。同大学の障害科学学位プログラム 博士前期課程1年次に米南インドアナ大学に留学し、ソーシャルワークやアディクションカウンセリングを学ぶ。留学中には現地のAAミーティングやコンベンションに支援者として参加。若者の依存症回復と学校教育を行うソーバーハイスクールやリカバリーキャンパスも訪問した。

・荒川久美子  
社会福祉士、精神保健福祉士  
福祉大学卒業後、三障害の地域コーディネーターとして勤務。平成19年からPFI手法による播磨社会復帰促進センターの社会復帰促進部にて勤務。改善指導や保護調整、主には特化ユニットに携わり、多くの障害を有する受刑者、帰宅先のない受刑者に関わる。令和3年に現職。

・庄司るみ子  
公立学校養護教諭  
養護教諭歴 35年。  
時代は変われど、自分の学びのヒントはいつも子ども達の中にあると感じ、日々揺れ動く中学生に向き合っている。

事前予約制 会場参加200名 ZOOMウェビナー参加500名

申込み締め切り2025年3月15日

会場参加申し込み <https://forms.gle/28fpQpRozGcqtet7>



ウェビナー参加申し込み [https://us06web.zoom.us/join/register/WN\\_jzXGkOFvSr-YTGJh-vFYlg](https://us06web.zoom.us/join/register/WN_jzXGkOFvSr-YTGJh-vFYlg)

